

「日々の理科」(第 2688 号) 2021, 11, 22

「月食の写真集(2)」

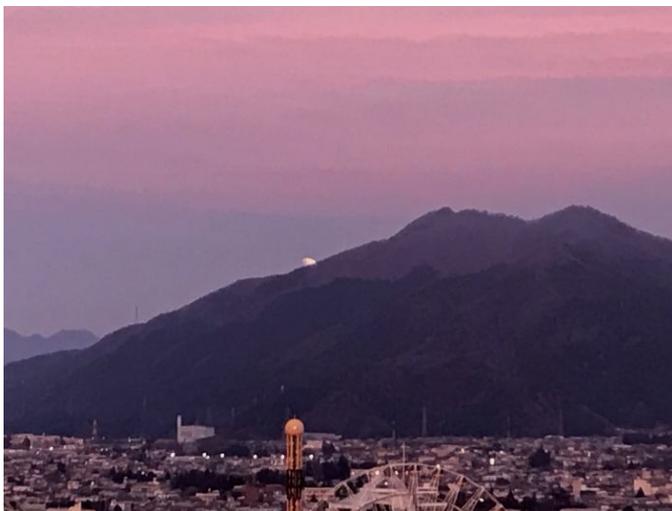
お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

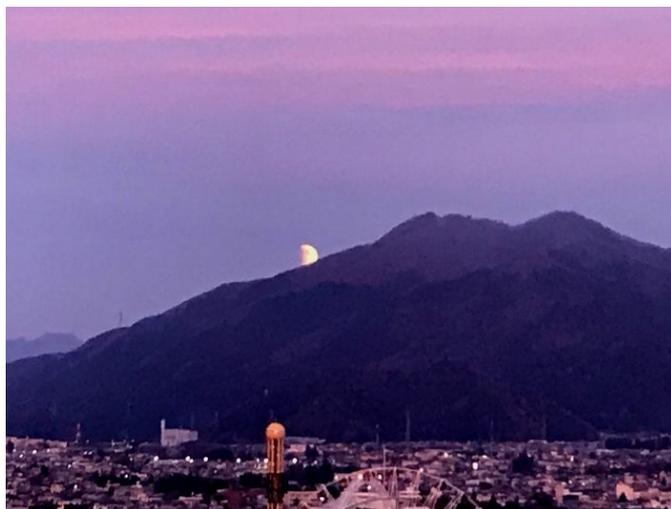
田中 千尋 Chihiro Tanaka



これは友人の大学の先生から送られてきた写真。たぶんスマホで撮影したものだろう。季節感のあるすばらしい天体写真なのだが、満月のように写っている。しかしこれも月食の日の記録として貴重である。



この卒業生から送られてきた写真は、非常に素晴らしい。今回の月食は「月の出」の時刻にはすでに欠けている(月食が始まっている)、珍しいケースだった。これを「月出帯食」という。都内では地平線や水平線が見える場所は少なく「欠けた状態で昇ってくる月」を撮影することは難しい。この写真は山梨県の富士吉田で撮影されたものだが、三つ峠山の稜線から、まさに昇ってきた「欠けた月」を見事にとらえている。偶然ではなく、「このあたりから昇ってくるはずだ」という計算、或いは「勘」が働いたのだろう。



この卒業生からは、連続5枚の写真が送られてきた。このカットは「半月(上弦)」のようにも見える。しかし、上弦がこのような向き(明暗境界線の角度)で見えるのは地平高度の高い南中時だけで、この写真のように地平線近くに見えるのは、月出帯食の時だけである。非常に貴重な写真と言える。



今回の月食は月出帯食だったので、まだ地平高度が低い午後6時過ぎに「最大食」を迎えたというのが特徴だった。従って、知人から送られてきた写真も、地上の風景を写し込んだ写真が多かった。京都から届いたこの写真は月食中の赤い月を、実に情景的に収めた素晴らしい名作である。